

東芝エレベータは、エレベーター部品の塗装工程で使う温風ヒーターを電気式から電気式に切り替えた。小型サイズで乾燥炉の近くに設置できる点などを評価。炉の断熱性を高める措置も行い、ヒーターの動力費を年間300万円削減した。

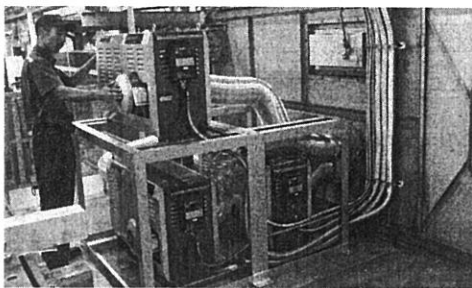
東芝エレベータは2016年7月、府中工場（東京都府中市）にある塗装乾燥炉で使うヒーターを電気式から電気式に切り替えた。サイズ約40立方分の乾燥炉に出力40キロワットのヒーター3台を設置。熱風を循環させ炉内を80℃に保ち、エレベーターの主要部品の一つ「ガイドレール」の塗装を乾燥させる。

モノづくり現場

低炭素・省エネ・生産革新 ⑥

東芝エレベータ府中工場

塗装乾燥炉、電気式に



動力費年300万円削減

（長野県千曲市）製 東芝エレベータの仲野靖製造部生産技術担当で、家庭用エアコンの室外機を一回り大きくした程度のサイズ感。ヒーターは八光電機製の。配管内での放熱口が蒸気を調達してお

で、家庭用エアコンの室外機を一回り大きくした程度のサイズ感。ヒーターは八光電機製の。配管内での放熱口が蒸気を調達しており、配管内での放熱口が蒸気を調達しており、配管内での放熱口が蒸気を調達して

東芝エレベータ府中工場は、東芝グループの各工場が集まる府中事業所にある。同事業所では集中的に蒸気を配る仕組みだった。しかし事業所全体として蒸気の使用量を減らす方向となり、東芝エレベータも対応を迫られた。

乾燥炉のヒーターの熱源をどうするか。引き続き蒸気を使う案、ガスを採用する案などが候補にあがったが、の改善とを併せて100万円超を投じた。動力費削減に加え、蒸気式では1時間弱しかつた乾燥炉の立ち上げ時間を5分に短縮できた。また炉内の温度が安定し塗装品質も向上した。仲野グループは「もともと早く電気式に切り替えれば良かった」と成果に満足している。

【事業所概要】▽所在地 東京都府中市東芝町1-042・3333・2462
 ▼主要生産品目 エレベーター機械用品
 ▼年間エネルギー使用量（16年度） 1829キロワット（原油換算）▼年間CO2排出量（16年度） 3626トン